



環境経営

東海理化グループでは、人と車の調和をめざし、環境保全を経営の重要課題と位置づけ、環境方針に基づく中期指針である環境取組みプランを5年ごとに策定して、活動を展開しています。

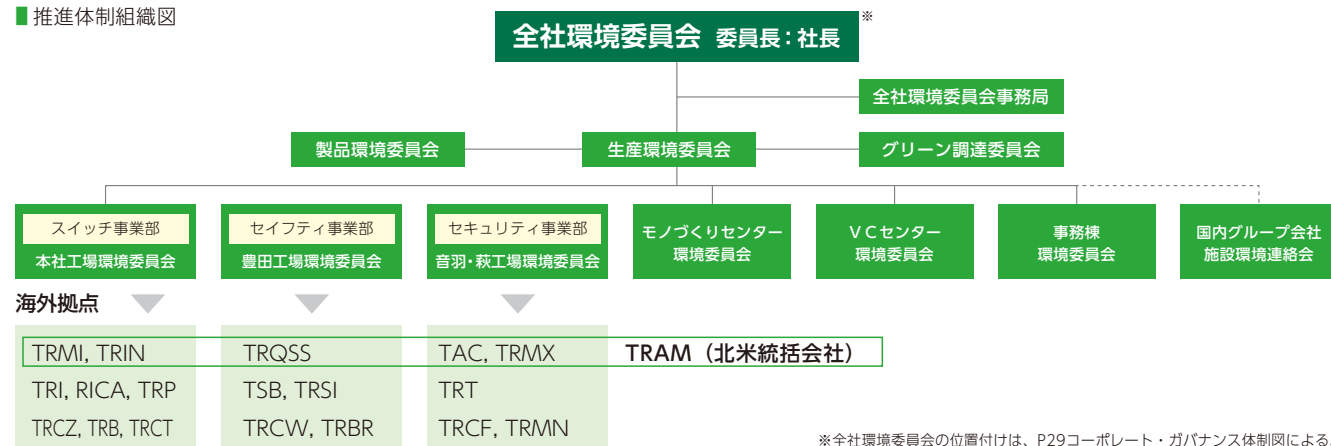
連結環境マネジメントの強化推進

地球規模で広がる環境課題への対応として、気候変動をはじめとする将来を見据えた環境リスクを捉え、グループ会社や仕入先と連携した組織体制による、連結環境マネジメントを推進しています。

推進体制

環境保全の活動方針、中長期目標、重要課題への対応は、社長を委員長とする全社環境委員会で審議し、決定しています。全社環境委員会の下部組織には、生産環境委員会、製品環境委員会、グリーン調達委員会があり、全社環境委員会での決定事項に基づき、それぞれの分野における取り組みを推進しています。

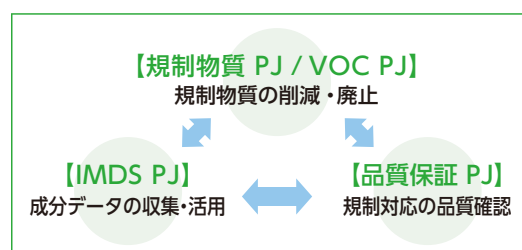
推進体制組織図



各委員会の活動

▶ 製品環境委員会

製品に使用される化学物質を、各国の法規制やお客様の要求に沿ったものにするため、規制の動向を把握し、4つのプロジェクトにより、確実な対応と製品設計への反映を行っています。



▶ 生産環境委員会

生産活動で発生するCO₂や廃棄物の低減に取り組んでいます。省エネや物流など専門的な視点で改善を行う分科会を設け、各工場の取り組みに横串を通してパフォーマンスの向上を図るとともに、国内外グループ会社への展開を行っています。

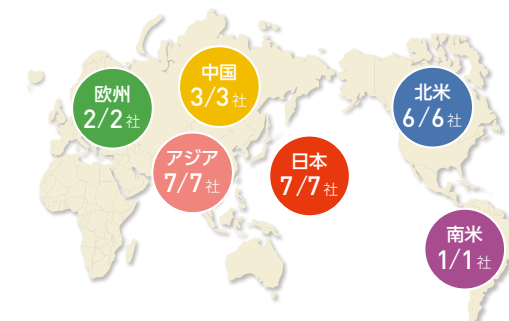


生産環境委員会

環境マネジメントシステムの構築・運用

各拠点が、継続的に環境パフォーマンスを向上していくため、環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、外部認証を取得しています。東海理化および全ての海外生産拠点では、ISO14001の認証を取得し、国内グループ会社では、ISO14001の他、エコアクション21の認証を取得しています。

生産拠点のEMS外部認証取得状況



環境リスクの低減

生産設備や構内作業の環境リスクを評価し、想定される緊急事態に対して、定期的に訓練を実施しています。また、豊田工場では、異常排水の社外流出を防止するため、新たに緊急貯留槽を設置しました。



緊急事態対応訓練



豊田工場 緊急貯留槽

Topics

TRP「グリーンアワード2019」受賞

TRP(フィリピン)では、植樹活動や太陽光発電の導入、世界自然保護基金が主催するアースアワー※のライトオフ活動への参加など、環境取り組みを展開しています。これらの活動に加えて、持続可能な経営ビジョンが、模範的な企業であると評価され、サンタローザ市よりグリーンアワード2019を受賞しました。

※世界中の人々が、3月最終土曜日の同時刻に電気を消灯することで地球温暖化防止と環境保全の意思を示す世界最大級の環境イベント



グリーンアワード2019表彰状



TRP(フィリピン)
Dan Joseph Marquez さん

生産現場での省エネ改善や太陽光発電の導入、継続的な植樹活動が、このような形で評価されたことを誇りに思います。これからも企業市民として、環境に貢献する取り組みを社員一丸となって進めていきます。

ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進

ライフサイクル全体での環境負荷や環境リスクを低減していくため、サプライチェーンを含めた環境マネジメントの強化を仕入先と連携して推進しています。

仕入先との連携活動

当社では、グリーン調達ガイドラインを定め、環境保全に対する考え方を理解していただくとともに、仕入先と協力体制を築き、連携した活動を展開しています。2019年度は、海外拠点各社においてもグリーン調達ガイドラインを制定しました。また、仕入先で組織する協力会の会員会社とは、定期開催する会合の中で、法改正情報や省エネ事例、環境ヒヤリ事例を共有し、東海理化グループと仕入先、双方のレベルアップにつなげています。



グリーン調達
ガイドライン

 環境經營

グローバル社員教育・
啓発活動の強化

教育カリキュラムや啓発活動の拡充により、専門スキルの習得のみでなく、社員一人ひとりが環境活動を「自分ごと」として考え、実践する風土を醸成するための教育体制を構築しています。

■ 環境月間の取り組み

6月の環境月間では、社員の環境意識向上のため、環境ポスター募集や環境講演会などのイベントを開催しています。環境講演会では、NPO法人国際環境経済研究所の竹内純子氏を講師に迎え、「社会動向と日本のエネルギー課題」をテーマに、経営層をはじめとする多くの社員が、エネルギー問題に対して企業がどう対応すべきかを学びました。



環境講演会



環境ポスター大賞(左:一般部門 右:こども部門)

■ 環境教育の充実

新入社員や昇格者へ実施する階層別教育、環境法令や省エネなど専門知識や技能を習得する職能別教育、各職場ごとの特色に応じて実施する職場別教育など、E-ラーニングも活用した体系的な環境教育を行っています。



環境法令教育



省エネ教育(E-ラーニング)

Topics

SDGs勉強会

世界的に取り組みが広がるSDGsについての理解を深めるために、若手が中心となり関係部署から参加者を募って開催した勉強会では、カードゲーム「2030SDGs」を通じて、職場や家庭の中で、どのような行動をすべきかを一人ひとりが考えました。



SDGs勉強会



デザイン部
石渡 友美さん

企業を取り巻く環境が大きく変化
する中で、SDGsの理解を深めることの重
要性を感じて、勉強会を企画しました。
参加者からは、SDGsの必要性をゲーム
を通じて分かりやすく理解できたとの
声もあり、有意義な機会になりました。

各国、各地域の
都市大気環境改善

塗装工程におけるVOC排出量低減の他、都市大気汚染の主な原因である自動車排ガスによる影響を低減するため、社有車の低公害車への切り替えを進めています。

■ 低公害車の導入拡大

事業所名	社有車総数(台)	HV・FCV導入数(台)	低公害車導入率(%)
本社・本社工場	132	83	62.9
豊田工場	15	10	66.7
音羽・萩工場	39	11	28.2
その他	8	6	75.0
合計	194	110	56.7

2019年度実績

56.7%

環境情報の積極的開示と コミュニケーションの充実

非財務情報に対する関心の高まりから、企業の社会的責任として、積極的な情報開示を進めています。また、地域懇談会の開催など、ステークホルダーとのコミュニケーションのさらなる充実をめざした取り組みを行っています。

環境データの開示

当社グループの環境に関する詳細なデータは、別冊のエコデータファイルで公開をしています。掲載項目は、GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」を参考として、原材料やエネルギー、水と排水、大気への排出、廃棄物などのデータを載せています。今後も、コミュニケーションの充実をめざし、積極的な情報開示を進めていきます。



事業活動における投入資源と環境への排出

使用するエネルギーや資源、排出されるCO₂や廃棄物の全容を把握し、当社の事業活動における環境負荷の指標として、低減の取り組みを進めています。

INPUT

原材料	
樹脂材料	9,467t
ウレタン	290t
亜鉛	1,729t
アルミニウム	1,486t
マグネシウム	1,913t
鉄	7,873t
銅	2,704t
ニッケル	31t
はんだ材	10t
銀	17t

エネルギー	
購入電力量	89,201MWh
都市ガス	4,631,069㎡
ボタンガス	120t

その他	
化学物質 [法規制]	252t
紙	1,482万枚
梱包・ 包装資材	1,383t

水資源	
水道水	237千㎡
工業用水	114千㎡
地下水	201千㎡

TOKAI RIKA

製品

工場

本社 事務所

レバーコンビネーション
スイッチ

リモートキー&レシーバー

タッチパッド

シートベルト

ステアリング
ホイール

OUTPUT

廃棄物	
直接埋立 廃棄物	0.75t
中間処理 廃棄物	749t

排水	
下水	122千㎡
河川	403千㎡

大気放出	
CO ₂ (エネルギー起源)	43,417t-CO ₂
CO ₂ (5ガス)	3,186t-CO ₂
CO ₂ (物流)	3,045t-CO ₂

RECYCLE

リサイクル	
リサイクル (逆有償リサイクルも含む)	10,965t

※WEBに掲載している「エコデータファイル2020(<http://www.tokai-rika.co.jp/society/report/2020/index.html>)」には、詳細なデータが掲載されています。